

1 尋ねていないことまで一方的に喋るA男(1年生)

学習・行動上の特徴

「読み」や漢字は得意であり、難解語も本を通じてよく知っている。

尋ねてもないことまで一方的に喋ることがよくある。特に初対面の人や初めての場所¹で多い。構音障害もあり、何を言っているのか不明瞭なことがある。

新しい場面での不安傾向が強く、全体に指示が出された場合、もう一度担任に聞きに来て確かめることが多い。自分から集団遊びに参加できないことが多い。

次々と周りの動きが気になり、一つのことをやり終えられない。そのため整理整頓が下手である。

注意集中にやや問題がある。耳から入ってくる刺激に気をとられ、指示されている方を見られないことが多い。

特徴の考察

本児の場合、緊張や不安感が常にあり、自己防衛から話したり尋ねることが多く生じていると考えられる。

言葉を巧みに操って表現しているようであっても、大切な要点が抜けていたり、その場とかけ離れたことを突然一方的に話し出す。これは社会的スキル²(社会的常識や人間関係の結び方など)の弱さを表す。

難しい言葉は知っていても、その言葉の正しい概念形成まではできていない。指示だけで行動に見通しをもつことにも困難がある。

視覚と聴覚から同時に多くの情報を与えると、混乱しやすい。

援助・指導の方針

本児は、非言語性LD³ではないかと考えられる。

ロールプレイや、絵に描かれた状況を説明させることなどにより、的確な表現方法や対人関係のもち方及び社会的ルールなどを、言葉で補いながら指導していく。また事物や感情などについて、絵や写真、人形や縫いぐるみなどを使用して、得意な話すことで説明を添えさせ、指導者が不十分な所を補うことで正しい概念の形成を図る。

見通しがもてない不安傾向については、ロールプレイでどう動けばよいのかを、あらかじめ練習させておく。また、会話場面も練習させたい。

注意集中が困難な場合は、「今、何をする時なの?」「みんなは、どうしている?」と問いかけ、行動を言語化し意識させる。

留意点

1年生には、よく標題のような児童を見かけるが、LDかどうかは生育歴や観察・検査などから慎重に考察したい。

本児の得意な数や文字の使用によって、苦手な内容ばかりにならないようにし、得意なことを褒めて自信や意欲につなげるように配慮する。

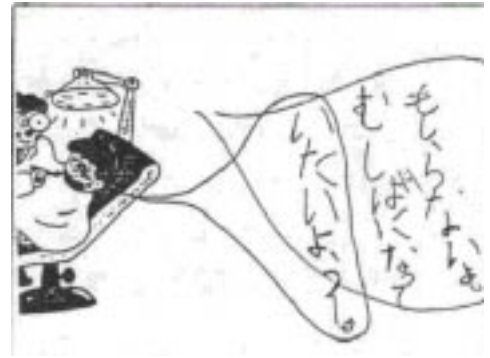
集中させるには、活動と休息を交互に入れ、けじめをつけさせる。

一度に多くの情報を与えると混乱しやすいので、情報や教材を精選する。

援助・指導例

(指導担当) 通級指導教室担当

(指導形態) 個別指導 週1回



ア ねらい

表情やその場の状況を読みとって話したり、行動できるようにする。

脈略を考え、適切な言葉を使って会話する。

構音障害の改善を図る。

イ 内容

状況把握 【表情の読み取り】泣き顔や笑い顔などのイラストを見て、その表情の心理状態を言わせる。〔上図〕また、「三択クイズ」のヒントを出すと喜び、正解が増えた。

【状況の読み取り】本児が喜んで読む絵本の「読んだ文章」が、「絵のどの部分」を指しているか文章と絵を対応(マッチング)させたり、また、動作化して読ませる。

【状況の把握】じゃんけんゲームの勝敗を即座に理解し、それに応じて行動させる。

コミュニケーション 【ロールプレイ】本児が苦手とする日常生活での「あいさつ」や「問いかけ」「お願い」などの場面を設定。自分が言いたいことを話し出すのではなく相手の様子を見て話し出す練習や、嫌なことをされたり、言われた時の対応練習。

【ゲーム】「すごろく」「どんジャンケンほい」などで、言葉と黒板でルールの説明をしながら練習する。チーム分けなどの場面では、相手の意向を聞く態度に注意させる。

構音指導 聴覚弁別(ラ行とダ行)、口形練習、復唱など

……《下記の ~ は、担任が、指導担当との連携を踏まえ主に取り組んでいる》……

運動 体育授業の際、動作やルールについて、一つ一つの動作に言葉を添えて説明し一連の動作としてつなげて理解させる。(例 跳び箱：「助走は元気よく」「踏み切りは両足そろえて」、手をつく位置に印を付けるなど)

遊び 休み時間の集団遊びに担任も参加し、本児にルールなどを説明する。

その他 教科学習と、忘れ物を防ぐための身辺整理などで個別指導を行う。

指導後の変化及び考察

ア 変化

本児が得意とする文字を読む活動や本読みを手がかりとして、自己有能感⁴をもたせるように指導を行ったところ、相手の気持ちを考えたり、今何をしようとしているのか考え、周りの様子を見て行動することが増えてきた。また、一方的に長々と話すことも減少してきている。

学級担任と担当が話し合い、担任がゆっくり説明することや、余裕をもってかかわることを意識し対応することを心がけた。その結果、分からない時には自分から担任に聞きにいけるようになり、次第に学校生活にも慣れてきているように思われる。

イ 課題

新しい状況場面に置かれると、まだ不安傾向があり、状況把握にも課題が残っている。また自分から学級の遊び集団の中に入れられない状態が続いているので、遊びのルールの理解や状況判断を素早く行う練習によって、自分から進んで入っていけるようにしたい。今後も担任と連携し、学級集団からも本児に働きかけるようにしたい。